

# 下部コーン型鋼板製消化タンク

## 技術概要

- 「下部コーン構造を有する鋼板製」の汚泥消化タンク。インペラ式攪拌機との組み合わせ。
- 内径と側深（有効水深）との比は1:1程度。

## 適用範囲

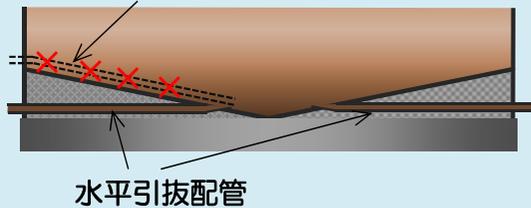
- 中温消化（消化温度 35~40℃）
- 投入汚泥は従来技術と同様。下水汚泥、し尿、浄化槽汚泥、農集排汚泥、生ごみ等場外バイオマス（発酵不適物を含まないもの）など。濃縮初沈汚泥、濃縮余剰汚泥の混合比率は問わない。
- 1槽あたり9,000m<sup>3</sup>以下

## 下部コーン構造

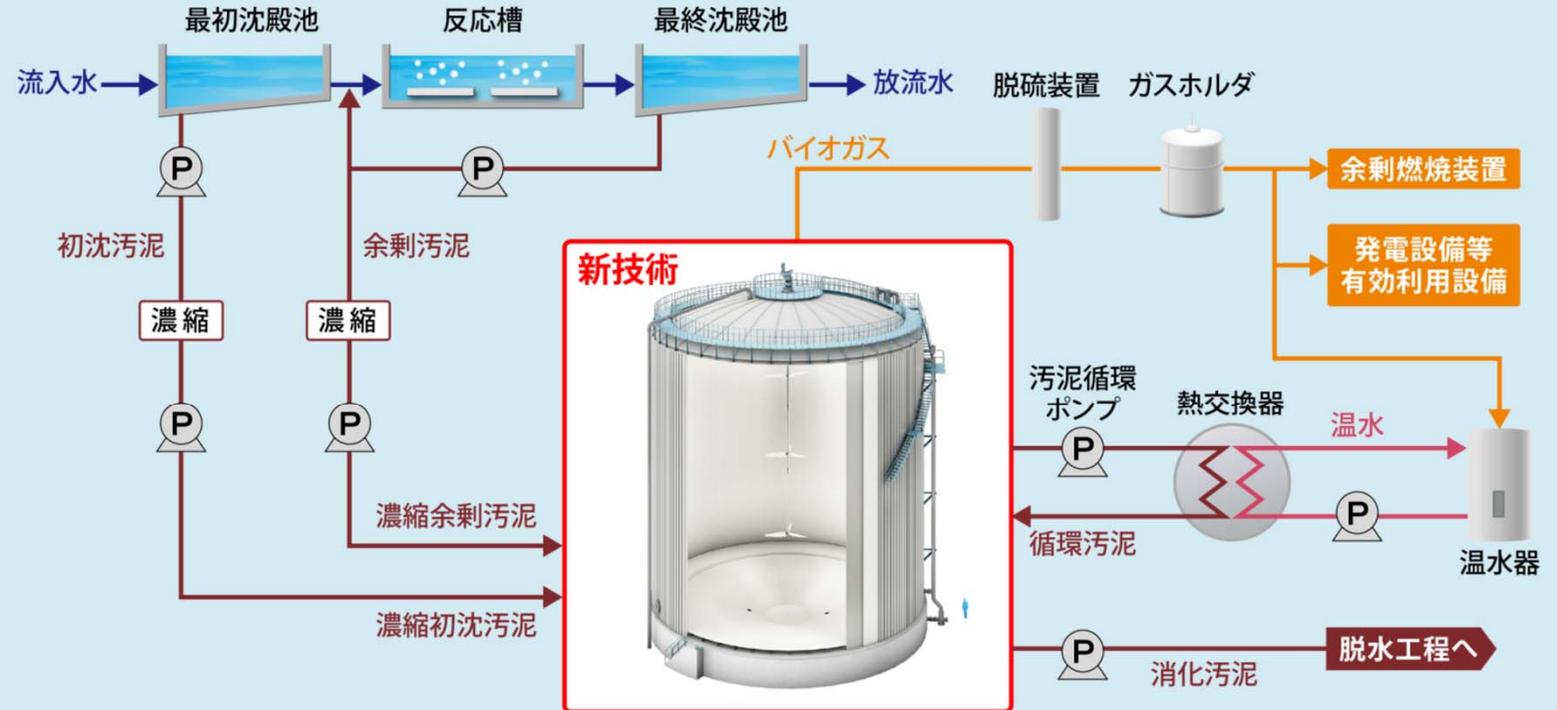
- 下部コーン構造の採用による沈降物集約
- 汚泥貯留槽で堆積防止の実績があるコーン角度
- 底部からの汚泥水平引抜き※による沈降物の強制排出

※消化タンクに上向きの引抜配管を設けない

一般的な引抜配管は上向き



## 一般的な関連施設の概略フロー・新技術の範囲



## 鋼板製消化タンク

インペラ式攪拌機（既存技術）との組み合わせ

# 下部コーン型鋼板製消化タンク

## 導入メリット・特徴

長寿命化・・・耐用年数35年(タンクのみ)

液相部A種、気相部D種※の防食実施

※JS防食技術マニュアルによる。10年毎の定期的な点検・補修が必要。

鋼板製のため、ノズルの追加等用途に応じた改修が容易

現場工事日数の短縮 & コストダウン

タンク本体の工場制作と土木工事を並行作業可能

地下室・管廊等の地下構造物が不要

メンテナンス負荷低減・・・汚泥堆積防止

下部コーン構造および底部からの汚泥水平引抜による沈降物の効率的な排出

省エネルギー化

低動力のインペラ式消化タンク攪拌機を採用

完全自動制御による汚泥循環ポンプの間欠運転を実現



インペラ式攪拌機

